

発行所
 八尾市消防団
 発行責任者
 八尾市消防団長
 小角道男
 八尾市高美町5-3-4
 TEL(072)992-0119
 FAX(072)992-7722



3面に関連記事

「笑顔で暮らせる社会」をめざして



八尾市消防団長
小角 道男

平素、消防団員の皆様には、地域住民の安心・安全を守るため、人知れぬご苦勞の多い中であつて、奉仕の精神をもつて献身的な活動を続けていただいておりますことに、深く敬意を表するとともに、消防団活動を陰で支えていただいておりますご家族の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

さて、近年、国内外で地震や台風、局地的な集中豪雨等による大規模な自然災害が相次いで発生し、また、東南海・南海地震が今世紀前半に発生するのではと危惧されている中で、地域防災力の向上が緊急の課題となっております。

しかしながら、地域防災の要となる全国の多くの消防団では、団員のサラリーマン化、高齢化等により、年々、消防団員が減少している状況でございます。幸いにして、本市におきま

ては、地域の皆様方のお力添えによりまして常に消防団員定数に近い団員数を確保できており、また、更なる団組織の充実のため、本年 4 月から消防団員定数を 252 人から 280 人に増員することができるようになりましたことは、地域防災を担う我々消防団にとりまして、地域防災力の向上が図れ、大変、有難く関係各位の皆様方のご尽力に対し感謝を申し上げます。

消防団といたしましては、この地域防災力を最大限に發揮し、地域の人々が「笑顔で暮らせる社会」をめざして、すべての団員が一丸となり、平常時の防災活動とともに、火災や事故、自然災害の発生時には、地域に密着した消防団の役割を万全に果たせるよう更なる努力をつづけていく所存であります。

団員の皆様には、社会環境が大変厳しい時代ではございますが、より良い地域社会作りのため積極的な消防団活動に取り組んでいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、団員ならびにご家族皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。あいさつといたします。

管外視察研修

平成 20 年 10 月 23 日 (木) 消防団幹部視察研修のため、兵庫県三田市、(株)モリタ三田工場を視察し色々説明を受けました。

(株)モリタは 100 年以上も消防車のトップメーカーとして消防技術の発展のため、現在も日々研究されております。

その中でも新次元の「泡消火システム」が、新しい消火戦術となっております。この新しいシステムは、「Compress



sed Air Foam System (CAFS)」と呼ばれ、コンプレッサーにより、水と消火薬剤の混合液に空気を圧入することで生成された泡を放射する装置です。

水の確保が困難な場所でも、高い消火効率を上げるシステムとして注目され、従来の水槽車 (1500ℓ) 7 台分の水 10,000ℓ に対し、CAFS 車 1 台のタンク水 600ℓ で同等の消火効率を誇り、山火事等の長距離送水や、水の使用量が少ないため、高層階や国宝、寺等の水損被害を最小限に抑えられるそうです。

その他、数多くの消防車を見学して、我等消防団と消防車は、よき相棒であり、これからも地域の安全のため、消防団活動に従事して行きたいと思えます。

高安分団長 西野仁

大阪府叙勲伝達式

昨春秋、元八尾市消防団第二分団(現八尾分団)の岡本正信さんが瑞宝単光章を受章されました。

岡本さんは、昭和19年より中河内郡八尾町自警団として活躍され、終戦後、昭和27年に八尾市消防団に入団され、平成9年に退団されるまで45年間の長い間、地域防災活動に活躍されました。

岡本さんは、戦前戦後の消防活動を知る数少ない方で、当時



昭和47年 ポンプ操法の指揮者をする岡本さん



の思い出として消防車ができるまでは、大八車にポンプを載せ、未舗装の道を走り消火活動をしたことや、西郡地区、新家地区へのアメリカ軍の爆弾投下等の話をされておりました。

今回の受章は、八尾市消防団の喜びであり、誇りであります。長年にわたり地域防災活動に活躍されておりありがとうございます。

我々も、更なる消防団活動の発展に取り組みたいと思います。今回の受章を、心よりお祝い申し上げます。

八尾分団 今井

分団紹介

我々龍華分団は、9名で活動をしています。管轄は、亀井・竹渕・太子堂・植松・春日・永畑等で行っています。

分団の定期的な活動としては、毎月最終日曜日に亀井中学校前の平野川でのポンプ放水訓練、毎月2回程度の夜のパトロール、地域の盆踊り大会の交通整理等を行っています。

これからも、八尾市民のために頑張っていきたいと思っております。

龍華分団 中家



消防出初式

平成21年1月12日(月)大阪府中部広域防災拠点において、消防職・団員、総勢422名、車両33台が参加し、八尾市消防出初式が挙行されました。当日は寒さも一段と厳しく、朝から雪が舞う中での開催となりました。

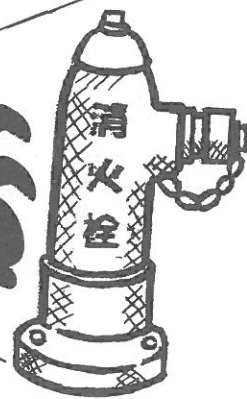
式典においては、まず八尾市消防救助隊員によるリペリング降下に始まり、音楽隊、消防職・団員、幼年消防クラブ員による分列行進の後、自動車部隊の行進へと展開されました。整列の後、国旗掲揚、殉職者に対する黙祷、市長より挨拶に続き、地域防災に貢献した団員に対し、市長ならびに団長より、それぞれ表彰が行われました。最後に消防救助隊による訓練が披露され、消防職・団員、幼年クラブ員による一斉放水で幕を閉じました。

新年を迎え、我々消防団員の役割を各々が改めて認識し、積極的に日頃の活動や訓練、更に地域の方々に防災意識を少しでも高めていただけるように、取り組んで行く心を新たにしました一日となりました。

志紀分団 西川



分団活動報告



平成21年1月26日(月)八尾市太子堂の大聖勝軍寺において文化財消防訓練が行われました。

勝軍寺は、古来聖徳太子が戦の難を逃れるため、一時立寄ったとされる言伝えが残され、木造四天王像、木造毘沙門天像等の大阪府、八尾市指定の文化財が数多く所蔵されています。

訓練は、午前10時から消防本部、消防団ならびに寺院関係者による重要物の搬出、寺院内延



焼想定箇所への放水訓練ならびに救急隊による応急処置訓練等が、本番さながらの緊迫感のなか行われました。

私達の歴史や文化、そして幼き頃に遊びまわった思い出等を宿した神社仏閣等の文化財を後世に遺していくためにも、文化財訓練を実施することは大変意義があることだと思いました。

私ごとですが、消防団に入団するまではこの様な訓練が行われていた事すら正直知りませんでした。一昨年までの私の様な一般の方々にも広く防火、防災に関心を寄せていただければ、今後とも広報の一人として心掛けたいと思います。

龍華分団 山崎



大正分団 南野

地域住民による自主防災組織の結成・維持をしていくのが難しいなか、当分団内において平成20年11月16日(日)に、太田新町公園にて太田新町会自主防災組織、また平成20年11月30日(日)には、大正小学校にて太田地区自主防災組織の発足式ならびに防災訓練が行われました。地域に密着した分団として、防災訓練に参加し、当分団においてポンプ操作を地域の皆様に披露しました。





平成20年度の小学四年生対象の消防聞き取り学習を、9月4日(木)に大正小学校、10月16日(木)に大正北小学校で行いました。聞き取り学習は、子ども達に消防署や消防団、地域防災について興味を持ってもらうために行っています。内容は、大正分団の団員から、消防署と消防団の違いについての説明があり、消防署の職員からは、消防署の紹介や、火災時の煙の怖さについての話がありました。



出張所のタンク車から、防火水槽に水を貯留してもらい、また水消火器を使っての消火訓練も行いました。両校とも子ども達に人気があったベスト3は、

第1位 「放水訓練」
大正分団のポンプ操作披露の後、代表の先生と生徒に放水の体験をしてもらい、水圧の懸かったホースにも触ってもらいました。

第2位 「消防団の積載車の説明」
子ども達に積載車を自由に見て触ってもらいました。

第3位 「資機材の説明」
インパルスやエンジンカッター等の説明の中で実際に空気呼吸器を装着してもらいました。

大正分団 南野



平成20年11月11日(火) J R久宝寺駅近くの第一樹脂工業本社ビルにおいて、秋季消防総合訓練が実施されました。当日の訓練は工場内部からの出火、負傷者数名という想定で、本番さながらの緊迫した雰囲気の中、消防本部・久宝寺分団が連携し、負傷者の救出・救護、消火訓練、避難誘導訓練等が行われました。



訓練が進むにつれて、最初は戸惑いながらも、次第に皆が何をすればいいか分かってきて、各持ち場や役割を全うすることができました。

今回の訓練で得たものを、これからの消火活動や災害時に、消防本部との連携を緊密にして地域の安全を守り、安心して暮らせるまちづくりに活かして参りたいと思います。

久宝寺分団 村上

健康診断

平成20年11月8日(土)消防本部において健康診断が行われ、団員248人中146人の方が受診されました。団員一人一人が日頃の健康状態に対して、熱心に質問する光景が多く見受けられました。

何らかの異常がみられた方は健康な体を目指し、日頃の規則正しい生活習慣を身に付けるように心掛けましょう。

また、異常がみられなかった方も、今の健康な体を維持するように心掛けましょう。



診断結果

- 受診者 146名 (58.9%)
- 受診者の内訳
- A - 4名 異常なし
- B - 10名 有所見正常
- H - 0名 要治療継続
- C1 - 7名 生活注意
- C2 - 42名 要経過観察
- H1 - 7名 要治療継続
- C3 - 27名 要再検査
- G - 44名 要精密検査
- D - 5名 要治療
- 所見別
- 1 血中脂質 62名
- 2 肝機能 26名
- 3 血圧 53名
- 4 血糖 11名

南高安分団 寺川



消防団ボウリング大会

平成20年11月1日(土) 第16回八尾市消防団員厚生事業ボウリング大会が、八尾ボウルアリーナで行われました。

当日、145名の団員の参加があり誰もが優勝をめざし、熱い火花を散らしながら熱戦を繰り広げました。

結果は左記のとおりです。

- 優勝 南高安 黒岡 正史
- 準優勝 志紀 越智 章史
- 第三位 志紀 湯田 真二郎
- ハイゲーム 236点

志紀 湯田 真二郎



志紀分団 山本

防火フェスティバル

平成20年11月8日(土) 秋季火災予防運動の一環で、防火フェスティバルが八尾市立総合体育館「ウイング」で行われました。

市長、消防長、消防団長、火災予防協会会長、消防本部幹部、消防団幹部など多くの関係者が列席のもと、幼年消防クラブ員による元気いっぱいの入場行進から始まり、クラブ員によるすばらしい演技が披露されました。そして多くの観客の方々に火災予防を呼びかけていました。

我々八尾市消防団員としての使命感を再認識する一日となりました。

山本分団長 岩田保一



歳末特別警戒激励巡視

平成20年12月29日(月)・30日(火)の両日、八尾市全域で歳末特別警戒を実施するなか、初日の29日に、消防団全分団の22箇所の消防団詰所に対して消防団長の激励巡視が行われました。

当日は、曙川分団を皮切りに最後の南高安分団へは、深夜12時頃の到着になりました。

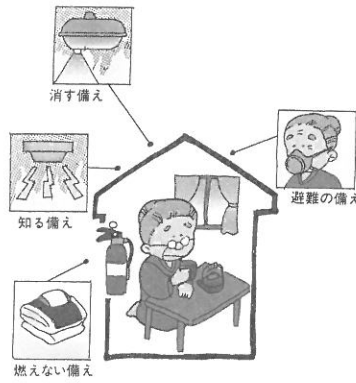
大正分団へは、午後9時過ぎに到着され寒い中でしたが、団長の前に団員が毅然と整列した



後、団長より一年を振り返つての労いと、より一層防災力のあ
る地域の創造に向け尽力してい
ただきたいと、身の引き締まる
お言葉を頂き、今後とも団員全員
が、郷土愛護の精神のもと、地
域に密着した活動と、地域住民
の生命と財産を守るべく、日々
研鑽に励んでいかなければなら
ないと再確認しました。

大正分団 南野

歳末高齢者ひとり暮らし 防火診断訪問



平成20年12月6日(土)消防
署の職員と曙川分団の団員2名
と一緒に地域内の高齢者一人暮
らし宅7軒を訪問し、コンロの
周囲や暖房器具等の火の元の点
検を行いました。

火災に気づかず逃げ遅れる高

齢者数は全国的に見ても大変多
く、火災の発生を早期に知らせ
てくれる、『住宅用火災警報器』
が設置されているかも確認しま
した。

万が一災害が起こったときに
は近隣の方々に協力していただ
いて、すぐに避難ができるよう
に消防団と地域住民の間で、日
頃から自主的な防災訓練が必要
であると思いました。

消防団としては火災や災害時、
ひとり暮らしの高齢者の情報を
事前に知っておくことが大切で、
地域住民と消防団の密接な関係
が重要だと改めて感じました。

曙川分団長 吉川公三

若なる会親睦旅行

立春も過ぎましたが、まだま
だ寒さが続く今日この頃です
が、若なる会皆様には益々御
清栄のこととお慶び申し上げま
す。

さて、先日平成21年2月7日
(土)〜8日(日)の若なる親
睦旅行に参加し、夕食会での盛
り上がりや個々の親睦の深ま
り、今回で去られる諸先輩方の
活躍等、昨日のように甦るお話
の数々、大変有意義な時間を過

すことができました。

今、世界的な規模で進む温暖
化で空気が乾燥し、オーストラ
リアの山火事、中国の中央テレ
ビジョンの大火災等々、毎日のよう
に新聞を賑わせております。

温暖化を防ぐにはエコを進
め、一人一人が防火意識を高め
地域の防災力を強化することが
大事だと思います。

最後になりましたが、団員皆
様方の励ましにより、より一層
活躍できるように頑張る所存で
ございます。

西部分団長 河野光春



新団員紹介

平成21年1月1日付で4名の方が入団されました。新団員の抱負を伺いました。



兼山 泰治(龍華)
① 水道工事
② バイク
③ 消防団員に任命していただいた以上、地域のお役に立てるよう、諸先輩方にご指導していただきながら頑張りたいです。



佐藤 伸昭(山本)
① 会社員
② 釣り
③ 地域を守る消防団員として、精一杯頑張っていきたいと思えます。



秋原 剛(山本)
① 水道設備業
② 野球
③ 小さい頃からこの地域に育ち、何か役に立てることができればと思い、消防団として、諸先輩方と一丸となって頑張っていきたいと思えます。



三根 和哉(志紀)
① 会社員
② 読書
③ 地域及び消防団に貢献できるように、先輩方のご指導、ご鞭撻を仰ぎ、団員として一人前になれるよう頑張っていきたいと思えます。

火の見櫓 創刊10年を越えて

「火の見櫓」第1号が創刊されたのは平成10年2月の事であります。

時あたかも平成7年1月17日阪神・淡路大震災が起こり、全国的に災害時対応機関としての消防団のあり方が見直され、当市でも平成8年度より消防団活性化事業が展開されるなかでの創刊でありました。

第1号から21号までの全てに目を通すと、とりわけ創刊当初には幾度となく試行錯誤を繰り返しつつも、インタビューやアンケートを取る等、大変な苦勞と弛まぬ努力の跡が見られ、その思いの熱さと深さが伺えます。

また各分団の活動内容だけでなく、時には順次指令の機械化、分団名称変更、新車両紹介、入退団者紹介等々、地域に根差しながらも時代とともに変わっていく団の姿が見られます。

昭和23年の市制制度発足以来、六十余年を数える八尾市消防団の歴史と伝統のなか、阪神・淡路大震災から14年、薄れゆく記憶に対して次は東海・東南海・

南海地震等が危惧される昨今、我々は今ここに至って広報部会としての役割を再認識するとともに、10年をひとつの区切りとして、これからのあり方を模索し『更なる改革』をテーマに活動したいと考えております。そして時が流れ、人が代わっても、その志は変わることなく「火の見櫓」には、この先20年、30年と先人諸先輩方の足跡の上に更なる塚を築き、伝え続けてもらいたいと切に願う次第であります。

委員長 西川



● 広報部員名簿 ●

委員長	西川 知広
志紀分団	西川 知広
副委員長	村上 直紀
久宝寺分団	村上 直紀
大正分団	南野 直紀
委員	正協 勝博
久宝寺分団	吉田 美紀
西郡分団	中川 良和
八尾分団	川崎 孝純
龍華分団	中山 一真
大正分団	山崎 隆誠
曙川分団	織田 和彦
南高安分団	高田 光陽
川崎	川崎 義正
寺川	寺川 典克
谷口	谷口 年秀
松田	松田 充弘
岩崎	岩崎 利雄
竹下	竹下 健剛
山本	山本 剛久
志紀分団	志紀 剛久

編集後記

皆様のご協力のもと、第23号を発刊することができました。本当に有難うございました。次期委員の方々のご活躍を心からお祈りしております。 西川